

農作物技術情報 第6号 果 樹

発行日 平成30年8月30日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ りんご 早生種の熟度は平年並～やや早め！適期収穫の徹底を！！
- ◆ ぶどう 全般的に熟期が早まっています！食味を重視した適期収穫を！！

りんご

1 生育概況

(1) 果実生育 (表1)

定点観測地点の果実生育(横径)調査結果を県平均でみると(表1)、8月21日時点では平年比101~104%、前年比100~103%と、地域によって若干の差はあるものの、気象変動の激しいなか、全般的には概ね順調に生育しています。ただし、高温の影響と思われる日焼け果も見られるため、成熟不良果やサビ果、奇形果等と合せて、随時見直し摘果を行いましょう。

(2) 果実品質 (図1~3)

定点観測地点の「つがる」の果実品質調査結果をみると、地帯による差はあるものの、県平均で、糖度は平年よりやや高く、硬度、デンプン指数はほぼ平年並、となっています。

今年は開花が平年より1週間程度早かったため、熟期も相応に早まることが予想されましたが、現時点では暦日で平年並からやや早めの熟度の進捗となっています。

また直近の1か月予報で、9月の気温は平年並から高いと見込まれているため、着色の遅れや貯蔵性の低下、そして果肉の蜜褐変の発生が懸念されますので、各地の普及センターやJA等が提示する情報を確認し、適期収穫を心がけましよう。

表1 県内の定点観測ほ場における果実生育(横径)状況(8月21日時点)

単位:mm

市町村・地区・公所	つがる					ジョナゴールド					ふじ				
	本年(H30)	平年	比	前年(H29)	比	本年(H30)	平年	比	前年(H29)	比	本年(H30)	平年	比	前年(H29)	比
農研センター	84.3	83.0	102%	85.0	99%	81.7	79.8	102%	79.0	103%	76.3	74.0	103%	74.2	103%
岩手町一方井	80.6	80.6	100%	80.6	100%	77.8	78.5	99%	74.1	105%	73.2	72.0	102%	73.1	100%
盛岡市三ツ割	80.0	80.6	99%	80.8	99%	79.8	78.4	102%	76.5	104%	73.0	73.1	100%	71.3	102%
紫波町長岡	83.4	83.5	100%	83.7	100%	77.9	78.4	99%	76.0	103%	78.5	75.0	105%	74.8	105%
花巻市上根子	81.7	82.4	99%	86.1	95%	75.1	80.2	94%	78.7	95%	72.1	71.9	100%	73.5	98%
北上市更木	-	-	-	-	-	83.9	83.1	101%	84.8	99%	82.3	77.2	107%	77.5	106%
奥州市前沢区稲置	81.8	83.5	98%	86.5	95%	79.5	79.1	101%	80.8	98%	75.7	75.1	101%	74.4	102%
奥州市江刺区伊手	76.8	80.2	96%	78.1	98%	79.9	79.8	100%	81.9	98%	75.0	70.8	106%	72.7	103%
一関市花泉町金沢	85.8	82.6	104%	79.7	108%	84.6	79.2	107%	82.7	102%	68.4	70.6	97%	70.1	98%
一関市大東町大原	-	-	-	-	-	80.3	78.1	103%	77.3	104%	75.0	73.4	102%	72.1	104%
陸前高田市米崎	84.5	82.5	102%	82.4	103%	83.0	78.5	106%	82.1	101%	78.6	72.4	109%	75.9	104%
宮古市崎山	86.7	80.4	108%	82.8	105%	82.5	80.9	102%	81.5	101%	79.9	74.5	107%	76.3	105%
岩泉町乙茂	-	-	-	-	-	91.6	77.5	118%	83.1	110%	79.8	72.8	110%	74.6	107%
洋野町大野	70.8	77.9	91%	71.8	99%	69.3	76.4	91%	70.0	99%	66.9	69.7	96%	66.1	101%
二戸市金田一	-	-	-	-	-	81.7	79.1	103%	78.6	104%	79.9	73.9	108%	77.4	103%
県平均値	82.4	81.8	101%	82.3	100%	81.4	79.3	103%	79.9	102%	76.3	73.3	104%	74.1	103%

※ 県平均値に農研センター、洋野町大野の数値は含まれていない

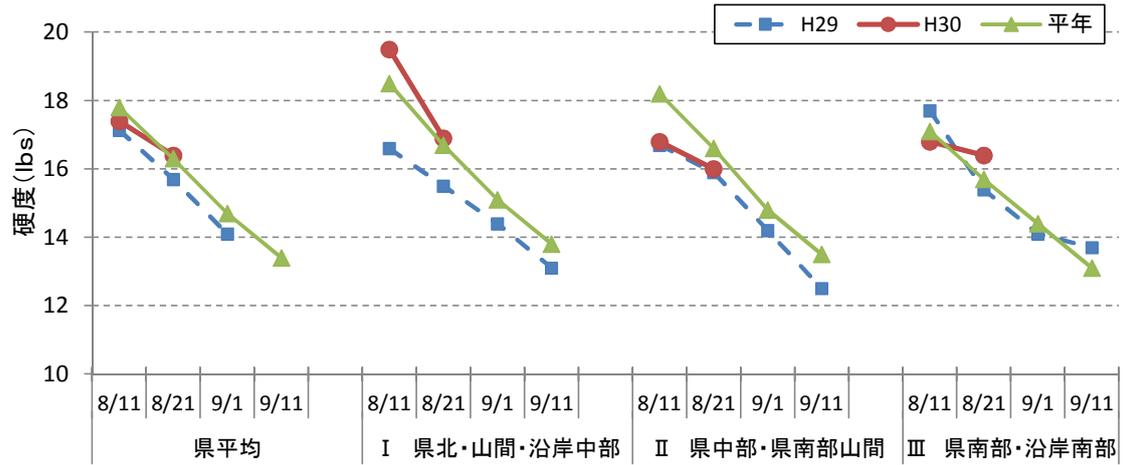


図1 定点観測地点における「つがる」の硬度の経時変化

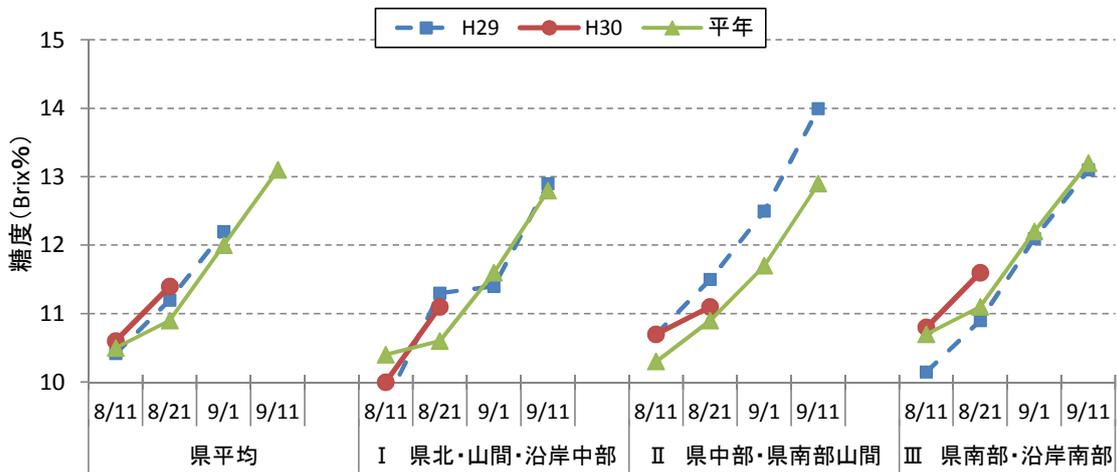


図2 定点観測地点における「つがる」の糖度の経時変化

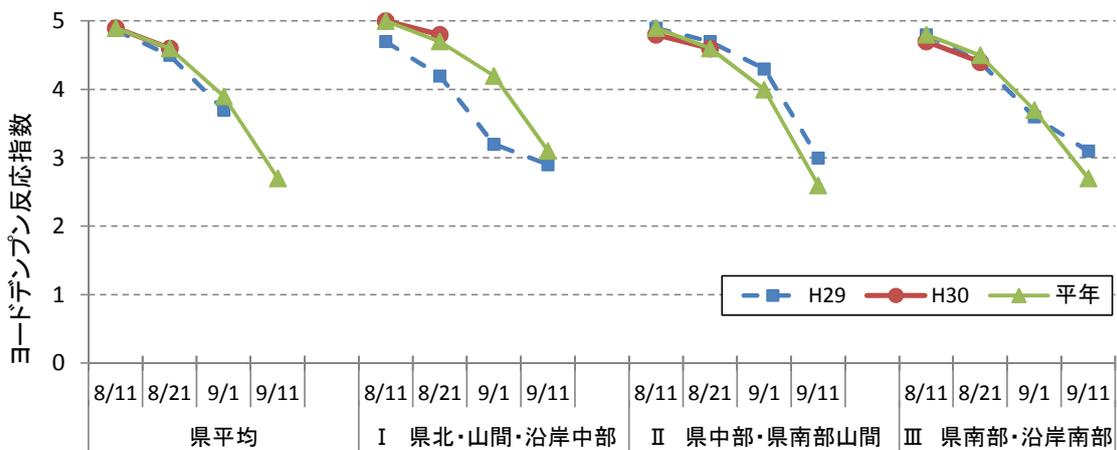


図3 定点観測地点における「つがる」のデンプン指数の経時変化

2 栽培管理の要点

(1) 早生種の着色管理

葉摘み作業が遅れている場合でも、果皮に急に直射日光が当たると日焼けが発生しますので、徐々に葉摘みを進めましょう。高温が予想される日には、極力、果面の温度が上がる午後から実施しましょう。

(2) 早生種の収穫

すぐりもぎが基本です。特に熟期が不揃いな「つがる」や「きおう」は徹底しましょう。

※ 詳細は7月26日発行の「農作物技術情報第5号 果樹」をご覧ください。

(3) 「紅いわて」の収穫について

「紅いわて」は着色の良い品種であるため、着色のみで収穫を判断し、収穫が早すぎてしまうと食味が劣り、品種の評価を落とすこととなります。食味を重視し、表2を参考に収穫を行ってください。なお、系統販売等、輸送して販売を実施する場合はデンプン指数2～2.5、直接販売を実施する場合はデンプン指数2程度を目安に収穫を行ってください。

表2 「紅いわて」の収穫期の目安

満開日 起算日数	満開日※	満開日起算 による収穫予想日	硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数
130～140日	5月2日	9/9～9/19	13以上	13以上	2～2.5

※:満開日は、農業研究センター観測日

(4) 中生種の着色管理

ア 「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉や枝カゲをつくらないように玉回しを収穫まで2～3回行います。玉回しと同時に適度な強さに葉を摘みます。

イ りんごの着色適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進まないの、過度の葉摘みとならないよう注意します。

(5) 「ふじ」の着色管理

ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9月下～10月上旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適度な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉や枝カゲを残さないよう玉回しを行います。

イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色や蜜入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください。

3 病虫害防除および気象災害対策

(1) 病虫害防除

ア 8月8日に病虫害防除所から褐斑病の注意報が発表されています（写真1）。本病の発生が確認された場合は、速やかにトップジンM水和剤またはベンレート水和剤を特別散布してください。

イ 近年発生が見られなかった黒星病が、今年県内でも発生が確認されています。苗木や未結果樹もあわせて発生状況の把握に努めるとともに、発生が確認された場合には罹病葉・果実は摘み取り処分しましょう。



写真1 褐斑病の病徴（黒色虫糞状の粒々が特徴）

そして、他病害との同時防除を兼ねて黒星病に効果のある予防剤を定期的に散布し、降雨が予想される場合は降雨前に散布を行います。苗木を含めた未結果樹においても、成木と同様に防除を徹底してください。

ウ 今後の気象条件によっては、斑点落葉病やハダニ類等が多発する恐れもありますので、病害虫防除所が発表する予察情報等を参考に、必要な防除を実施しましょう。

エ 早生品種の収穫期になりましたので、農薬の使用にあたっては、それらへのドリフトと、使用基準（倍率、収穫前日数等）には十分注意してください。

（２）台風対策

これから、台風が多く発生する時期になります。強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、気象情報に注意し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限にできるよう対策を講じてください。

（３）湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨など、園地内が過湿となった場合、裂果や根部の障害による樹勢衰弱の要因となります。園地内に水が停滞しないよう、溝を掘るなど排水対策を講じましょう。

（４）日焼け果

今後も気温が高く推移する見込みのため、日焼け果の発生が懸念されます。前号で原因と対策について記載していますので参照してください。

ぶどう

1 生育状況

8月25日時点の定点調査地点における「キャンベルアーリー」の果実品質は（表3）、平年と比較して房長がやや小さいものの、果径は平年並で、糖度は平年よりかなり高くなっており、着色始期も平年より早まったので、収穫期も例年より早まるものと思われます。

なお大粒種等の雨よけハウス栽培では、高温の影響からか着色がやや遅れている場合もありますが、熟度は進んでいると考えられますので、過度に着色は期待せず、食味を重視した適期収穫が重要です。

表3 「キャンベルアーリー」の生育状況（調査地点：紫波町）

調査年次	着色始期 (月/日)	8月25日時点での生育				
		新梢長 (cm)	節数 (葉数)	房長 (cm)	果径 (mm)	糖度 (brix%)
本年(H30)	8/3	135.9	16.6	14.3	19.5	15.6
平年	8/7	135.3	17.5	15.5	19.5	11.5
平年差・比	-4	100%	95%	92%	100%	136%
前年(H29)	8/3	144.6	16.9	13.1	19.7	13.0
前年差・比	0	94%	98%	109%	99%	120%

2 収穫

収穫は着色、糖度などの食味に留意しながら、品種ごとの基準糖度に達してから行います。過熟になると、商品価値が低下し、裂果や脱粒の発生も助長しますので、過度に着色は期待せず適期収穫に努めましょう。

※ 詳細は、7月26日発行の「農作物技術情報第5号 果樹」をご覧ください。

次号は9月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。